

**ナシ黒星病の果実への発生が認められています。
梅雨明けが遅れる場合は薬剤の追加散布を行いましょう。**

[現在の状況]

7月上旬現在 地区予察圃における黒星病の発病果率は6月下旬より増加傾向にある(表)。また、一部、多発している圃場が見られる。笠間市の県予察圃(農業総合センター園芸研究所)における無防除区の発病果率及び発病葉率は平年並である(表)

表 地区予察圃における黒星病の発生推移

地域 ¹⁾	発病果率(%)		発病葉率(%)	
	6月下旬	7月上旬	6月下旬	7月上旬
県央	0.17	0.00	0.00	0.34
県南	0.00	0.78	1.89	1.22
県西	0.11	0.44	0.56	0.56
全県	0.08	0.46	0.92	0.75
県予察圃 (無防除)	30.0	29.0	28.3	26.1

1) 各地域の地点数は、県央2カ所、県南3カ所、県西4カ所。

[防除対策]

茨城県赤ナシ無袋栽培病虫害参考防除例に準じて、7月中旬にアンビルフロアブルを必ず散布する。梅雨明けが遅れ、曇雨天が続く場合は、散布7~10日後に、アミスター10フロアブル等の薬剤を収穫前日数に注意し、追加散布する。

薬液散布量は、10a当たり300リットルを目安にし、徒長枝の先端までまんべんなく薬液がかかるよう丁寧に散布する。薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。

薬剤防除の際は、周囲へ飛散(ドリフト)しないよう十分注意する。